

三原市久井歴史民俗資料館 vol.10

モーモー通信



モウ♥かわいい♪どろ人形

「ひな祭りの歴史」知ってる！？

ひな祭りは女の子の成長を願う節句行事です。もとは旧暦の3月3日(現在の4月頃)の行事で、桃の花の咲く季節に行われるので「桃の節句」ともいわれます。起源は、古代中国の風習です。中国では1年の節目であり季節の変わり目となる、5つの節句(節日)が決まっていた。3月3日も5節句の一つで、その日は厄日(災難の多い日)とされていました。厄よけとして、人の形に切った紙を身代わりとして川や海に流していました。この風習は奈良時代に日本へ伝わりました。

日本では、少女の間で紙などで作った人形(ひいな)と身の回りの道具をまねたおもちゃで遊ぶ「ひいな遊び」というものが行われていました。

今と違って昔は、子どもが元気に成長するのは難しい時代で、長い年月の間に中国から伝わった行事と遊びが重なり合って、現在の「ひな祭り」になったといわれています。

「節句どろ人形」って？



資料館の蝶々展に際し
「しゅごもー」

節句どろ人形は、昭和39(1964)年に広島県の有形民俗文化財に指定され、資料館に267体あります。久井地域では、明治20(1887)年頃から初節句を迎える子どもの将来を祝うために、どろ人形をおくる慣習が盛んでした。人形は菅原道真をモデルにした天神さんを中心に、戦国武将やお姫様などで構成されます。収蔵している人形のうち、三次人形が167体、三原人形が41体をしめます。節句どろ人形には、子どもの成長を願う気持ちが込められています♪

【三次人形】



天神

寛永年間(1624～1643)の頃、三次藩祖浅野長治が、江戸浅草の人形師を招いて、「忠臣孝子(誠意がある家臣で親孝行な子)」の像を家臣に与えたのがはじまりとされます。粘土を人形の型取りをして素焼きし、彩色して最後に二カワ(動物由来のニス)を使って仕上げます。

暑いと扱いづらい二カワを使うため1年かけて制作され、美しい光沢があり別名「光人形」ともいわれています。(資料館では制作工程ビデオも上映中♪)

【三原人形】



力士

明治時代から大正時代末期頃にかけて、三原市本町や西町周辺にあった6軒の「土人形屋」によって販売されました。現在は(一社)三原観光協会で三原人形絵付け体験教室が行われています。三原人形は、三次人形をまねたものといわれ、人形の特色としては、簡素で大きな作りとなっており、底面はなく和紙をはっています。



～開催中です～

企画展
「久井岩海のキセキ」
きてね♪



★「モーモー通信」はHPでも★
調べよう! みはらコレナンド?(子ども向け)

<https://www.city.mihara.hiroshima.jp/soshiki/50/104083.htm>

つづきは資料館で…

〒722-1303

三原市久井町下津 1397

三原市久井歴史民俗資料館

TEL・FAX 0847-32-7139

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合、翌日休館), 年末年始

アクセス 中国バス久井中停留所下車

いあんない図

